



学校の学びをのぞいてみました

合志楓の森中学校



- ①の教室では先生が国語の授業を行なっています。(2ページ)
- ②の教室ではリアルタイムで配信される授業を電子黒板で視聴しながら学習しています。
- ③自宅で学習する生徒も、グループを作って意見交換する時間を持ちたり、教室に向かって発表したりすることができます。
- ④配信用のタブレットは1クラス1台準備。自宅学習をしている生徒の様子も確認できます。
- ⑤機器の操作で戸惑ったときは、周りの先生たちがサポートしてくれます。



特集

学校が変わる 未来へつながる ICT教育

手探りから始まり、今も進化を続ける授業

合志楓の森中学校では、分散登校とオンライン授業を実施し、感染対策とICT教育を両立させ「学びの保障」をしています。

この日は国語の授業を1クラスで行ない、隣のクラスの電子黒板に配信。さらにそれぞれのクラスの生徒の半数は自宅でオンライン授業を受けることで、教室内が密になることを防いでいました。どのクラスで授業を行なうか、どの生徒が在宅かはローテーションで順番になるよう時間割が工夫されています。

今こそスムーズに授業を行なっていますが、始める前は「ICTなんて私には無理」という先生も。しかし、ICT機器に詳しい先生が機器の設定や操作方法をサポートし、生徒と関わる経験値が高い先生は、オンラインで授業に参加する生徒の意欲を引き出す方法をアドバイスするなど、次第に職員同士の協力体制ができてきたそうです。

また、この体制になってからは、事情があつて教室に入れない子どもも、オンラインで授業に参加することができるようになりました。今後は、一人ひとりの学習状況に応じた個別学習や協働学習など、ICTの活用をもっと広げていきたいと考えているそうです。

新しい生活様式やテレワークが急速に進んだ現在、学校での授業風景はどのように変わったのでしょうか。

市内の小・中学校では、先生と生徒の皆さんが自分たちに最適な教育環境を模索し、工夫して新しい学びを実現している姿がありました。今月の特集は、情報社会に対応し、未来へ生きる力を育んでいる教育の現場からお伝えします。

用語解説

ICT教育

パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法のこと。ICTはInformation and Communication Technologyの頭文字で、日本語では情報通信技術を意味します。

ICT教育のメリット

動画や映像・音声
が組み込まれた教材
で興味と理解が
深まる

課題や目的に合わせ
て最新の情報を
収集・分析する調
べ学習ができる

個人の考えをすぐ
に共有し、双方向
で意見交換する協
働学習ができる

情報収集や発信の
方法を学ぶことで、
情報モラルを意識
する機会が増える



いのうえ たけひさ
井上 竹久 教諭
(合志楓の森中)

タブレットが1人1台整備され、授業の可能性は大きく広がりました。タブレットの使用によるネットのトラブルなど心配もあるかと思いますが、最初から使わせないのでなく、課題が見えた場面をとらえて指導することで、情報社会に参画する態度を育てています。生徒の発信力も併せて伸ばしたいですね。



かわさき あんじゅ
河崎 杏珠 さん
(合志楓の森中2年)

ICT機器を使った分散登校が始まってからは教室が密になることもなくなり、安心して学習できるようになりました。オンライン授業も先生たちの工夫で日々改善されていて、自宅でも学校と同じように授業を受けることができます。少人数なので質問もしやすくなりました。